

「皇農」問答

(裏面を参照下さい)

甲野 乙山君、今日は少し話そうやないか、お互に百姓もこのまゝでは何ば働いても借金で首が廻らぬようになるだけや、しつかりしようせ。

乙山 同感やこの状態では小百姓は野たれ死にする外ない、僕もこの頃そう言ふことを考へ込んで夜もろくろく眠られん。ときに君「皇國農民同盟」と言ふのはどう言ふ團體か知つて居るか?

甲野 そこや! その同盟のことで今日は是非話したい、僕も永い間自分一家だけでなく、村のけふの状態や行く末のことを案じて、すい分悩んで來たが終に見付けたのがこの「皇國農民同盟」や、この同盟は略稱を「皇農」と言ふとる「皇農」こそお互の貧乏退治して、樂んで農業の出來るようにする唯一の力であり、團體であることを知つた。

乙山 なる程

甲野 「皇農」では日本の農民は部落一體、相依り相助け合つて行かねばならんと説く、然かし如何に一つに固るにしても、それが怨の皮の突張りの固りでは不可ぬ、部落の人凡ての共同の幸福の爲め、と言う理想が一人一人の胸に宿り、それが信念となつて働いて助け合ふのでなければならぬ譬へは狭い部落で自分は金や土地を持つて居るからとて他を助けず自己本位で暮す様な人は、それこそ共同の幸福を奪ふ者である「一人も漏れない共同幸福の部落」はやがて全國民の榮への基となる、これが「皇農」の綱領である。

乙山 尤もだ、日本人はそうでなけりや行けんと思ふ、それで「皇農」は村で何をやるのか

甲野 先づ部落又は村々で同志相集つて皇農の支部を作る、支部は部落の小作問題、土地問題、借金問題、税金問題、日稼労働問題、副業技術問題、工業問題、健康問題、教育問題、等凡ての農村問題に就て部落共同の幸福の爲め相犠牲となつて戦ふんじや。

乙山 そうすると從來の所謂「農民組合」とはさう異なるのか。

甲野 そりや君、全く異なる。

第一「皇農」は一君萬民の精神的綱領を持つて居るが「農民組合」には之れがない。

第二「皇農」は部落共同體を目指し凡ての農民で同盟を作るが「農民組合」は貧農を孤立さして無力にし農村經濟を破壊する。

第三「皇農」は護國の烈士を育てるが「農民組合」では時々共產黨員の苗代となる等々、いくらでも差異を擧げりや切りがない。

乙山 そうあつてこそ日本中の百姓は感激して参加する、時勢にピッタリと合うてゐる、我々も助かり村も助かり國も救へる理想の團體と言ふものじやし、僕は決心した。この部落を「皇農」の指導で理想郷にしよう、君加入の手續はどうすりやえのか。

甲野 僕の簡単な説明で「皇農」を知つてくれて加盟するならば君の爲め又村の爲め喜びに堪へない。加盟手續は別紙の「加盟申込書」に五十錢の同盟費(一ヶ年分)を添へて最寄りの皇農支部又は本部へ申込んでくれませう。

向つてに話して置くが百姓のことならそんな小さな問題でも支部又は本部へ持込んで貰へば懇切に相談に應ずる。

乙山 いやいろ／＼ありがたう。

(おはじ)